

令和５年度 自己評価表			鳥取県立鳥取聾学校ひまわり分校
中長期目標 (学校ビジョン)	聴覚障がいのある幼児・児童・生徒一人一人の教育的ニーズに対応した適切な教育を行い、自立と社会参加に向けて豊かな心とたくましく生きる力を育てる。 ⇒ 〈めざす子ども像〉 学び合う子 かなえる子	今年度の基本方針	１ 子どもたちが主役となり「わかる」「できる」「たのしい」と感じる授業・保育づくり ２ きこえに応じた学びの充実 ３ 自分のきこえを知る～自立活動の充実 毎日 帯で～ ４ 自分のよさを知り、のばす、夢に向かう取り組みの推進 ５ からだを動かす楽しさを知り、からだづくりを生活に位置づける ６ 子どもと向き合う時間を充実するための業務改善

評価基準	A:十分達成81～100% D:まだ不十分31～40%⇒改善方針が必要	B:概ね達成61～80% E:目標や方針の見直し30%以下	C:変化の兆し41～60%⇒経過を分析し、改善方針を検討
------	--	----------------------------------	------------------------------

評価項目	年 度 当 初			
	評価の 具体項目	現 状	目 標 (年度末の目指す姿)	目 標 達 成 の た め の 方 策
１ 社会で生き抜く力を身につける	② ① きこえ・ わが えに育か る・授・ 業・で き・た の・し い・と 感・じ る	幼稚園部 ・それぞれの活動において自分なりに楽しんで遊んでいるが、友達を意識して一緒に遊びこむまでには至っていない。また、自分がしていることへの自信がないため、消極的なところが見られる。 ・自分の思いや気持ちを表現する気持ちが高まってきているが、体験したことや思いを伝えることばを十分に獲得しているとは言えない。	・自分のできることが増え、積極的に様々な活動に取り組む、友達と関わり合いながら遊びこんでいる。 ・自分の気持ちや体験したこと、身の周りの出来事などを伝えることばが増えている。	・興味を持てるような環境や豊かな体験活動を設定し、自分ですようと する姿を称賛する。また、過支援にならない関わりや友達を意識するやり とりについて共通理解を図る。 ・手がかり(写真、絵日記等)をもとに、経験を言語化する活動を続けたり、 拡充模倣を意識した丁寧な関わりをしたりする。
		小学部 ・児童の実態や発達段階に幅があり、個に応じた指導・支援の工夫に取り組んでいる。 ・手話や音声による表出、獲得語彙数が十分でなく、考えや思いを確実に伝えられていない場面が見られる。	・児童一人一人がめあてや課題を意識して、主体的に楽しく学習に取り組める授業づくりを行っている。 ・ことばの表出、獲得語彙数、コミュニケーション力を含めた言語力が向上している。	・授業におけるめあての提示、話型の活用、めあてを意識した振り返り等 を毎時間心がける。 ・ICT機器の活用、板書の工夫、教室掲示等、視覚的支援の工夫を行う。 ・学部内で情報共有する時間を確保する。
		教育研究・自立活動部 ・意欲的に学習や保育活動に取り組む、自分の思いや考えを伝えようとする姿が見られるが、表現する力ややりとりを通した関わりが十分ではないため、うまく伝わらなかったり、友達の意見を受け止める姿勢が十分に育ってなかったりする様子が見られる。 ・自立活動指導プログラムを活用しながら幼児児童の実態をとらえ、一人一授業研を通して教師の指導力の向上に努めているが、自立活動と各教科・保育活動等とを関連づけた授業づくりや事前・事後研の深まりが十分とは言えない。	・幼児児童が「伝えたい」という意欲をもって積極的にそれぞれの表現方法で伝えようとするとともに、相手の話を「知りたい」という気持ちで受け止めようとしている。 ・幼児児童を多面的・客観的にとらえ、自立活動の視点を基盤とした授業づくり、環境整備を行っている。 ・事前研や事後研を通して教師の指導力・支援力がさらに深まり、授業や活動に生かしている。	・幼児児童からの表出・受容を促すための環境整備。(視覚的教材の掲示、手話言語によるコミュニケーション、待つ姿勢、発問の工夫、話型の提示等) ・自立活動指導プログラム等を活用した、幼児児童一人一人の丁寧な実態把握。 ・参観ウィーク、一人一研究授業、全体研究会等、教職員研修の推進と事前研・事後研の改善・充実。
２ こうなりたい自分・夢をもつ	④③ 取自自 組自組 分の分の のよき のこえ をを 知を るる のの ば自 す立 、活 夢動 にの 充充 か実 う	幼稚園部 ・毎日、絵本の時間を設定し、絵本の世界を楽しむ様子が見られる。ただ、読む絵本のジャンルに偏りが見られる。 ・大きくなったら何になりたいのかのイメージを持つことが難しい幼児がいる。	・絵本を読む楽しさや想像する楽しさを感じ、様々なジャンルの絵本を読んでいる。 ・大きくなったら何になりたいのかのイメージが膨らんでいる。	・絵本の読みみかせなどの際に、途中で次の展開を想像させる場面などを意図的に設定し、お話を通してのやりとりを進める。また、様々なジャンルの絵本を紹介する。 ・「〇〇ごっこ」などの遊びに様々な職業を取り入れたり、あこがれを感じ る働く姿や手本となる大人の姿を紹介したりする機会を設ける。
		小学部 ・友達や他者と関わることを楽しみ、意欲的に活動しているが、自信のない活動には消極的になったり思いを伝えられなかったりすることがある。 ・相手にわかるように伝える、わかろうと思ってきく意識が十分に高まっていない。	・自信がない活動にも、失敗をおそれず、取り組もうとしている。 ・自分にはきき間違えたりきき漏らしたりすることがあることに気づき、話を最後まできこうとしたり、確認したりしようとしている。	・失敗する場面や困る場面をあえて設定し、考える時間を確保する。 ・達成感を味わったり、自他のよさに気づいたりできるように、児童の制作物に感想を書いたり、がんばりを紹介したりする機会を設定する。 ・「わかる」経験を積めるように、話の内容を確認したり、ことばを指文字等で確認したりする。
		支援部 ・簡単な手話や音声などことばの模倣が増え、やりとりが少しずつ広がっている様子が見られる。 ・幼児児童生徒が「伝える」ことに不安や悩みを持っている。またその状態を保護者も心配している。	・子どもの「伝える」簡単な手話や音声が増え、親子のやりとりの内容がさらに広がっている。 ・「伝える」ことを楽しんでいる。	・日常生活で自分の思いを表出する簡単な手話や音声を増やすために、手掛かりとなる興味を引く題材・内容とともに、繰り返し手話や音声を示していく。 ・子どもと保護者にしっかりと寄り添い、相談しやすい関係を築く。幼児児童生徒一人ひとりに対し課題を明確にし、練習方法を提示したり、工夫の仕方を一緒に考えたりしていく。
３ あきらめない体力・気力	⑤ から だを 動 か す 楽 し さ を 知 り、 進 ん で 取 り 組 む	幼稚園部 ・からだを動かすことが好きで積極的に遊んでいる様子が見られるが、からだの動かし方に不器用さがある。	・からだの動かし方が上手になり、楽しんでからだをしっかりと動かしている。	・なわやボールなどからだづくりに使う道具を手に取りやすい環境を整備する。 ・さまざまな動きを取り入れたからだを動かす活動の内容を充実したり、時間を確保したりする。
		小学部 ・からだを動かすことが好きな児童が多いが、活動にバリエーションがなく、また自分から意識して体力づくりを行うことは難しい児童もいる。	・体力づくりの目標をもって運動に取り組んでいる。 ・体力づくりや自立活動で行っている学習を、家庭でも自分から取り組もうとしている。	・体力づくりの時間や休憩時間に様々な運動を紹介し、バリエーションを広げる。 ・体育副読本を活用したり、マラソンやからだほぐし等の体力づくりカードを用意したりする。
		健康安全教育部 ・休憩時間には、学校や療育センターの中庭でからだを動かす様子が見られる。 ・時間が合った際には、幼児児童と一緒に遊べる。また遊ぶこともある。	・遊びの種類が増え、子ども同士が誘い合ってからだを動かしている。 ・家庭や地域でも進んでからだを動かそうとしている。	・子ども同士での誘い合いができるよう、幼稚園小学部と一緒にできるからだを動かす遊びを提案し、活動する場面を設定する。 ・主体的な活動につながるよう、発達年齢に合った運動や家庭でも楽しめるからだを動かす遊びを発信する。
４ キャリア教育の推進	〇〇 関 係 者 の 関 与 の 意 識 を 高 め る 工 夫	支援部 ・Googlemeetを利用したオンライン形式での情報交換会では毎回一部の参加者に限られている。(昨年度は年に5回程度予定した) ・一部の保護者は、早期教育や就学、進学、就職について不安や悩みを持っている。	・西部地区難聴特別支援学級担任が実際の指導や支援に生かすために、主体的で気楽に参加できる情報交換の場を設定している。 ・きこえについての早期教育、就学、進学、就職について、理解が深まっている。	・年間予定を事前に伝える。また、個々のニーズを把握した上で情報会の内容を決め、事前に伝えるようにする。特に新しく担当になった担任には、電話で様子をきいてみるなど関わりを持つていくようにする。 ・校内外での研修の機会を見据え、情報収集を行い、保護者や教職員に還元していく。
		キャリア教育部 ・保護者は幼児児童の将来の姿のイメージを持ち始めている。	・幼児児童の将来の姿やキャリア発達について、保護者と教員が話し合いを深めている。	・きこえない・きこえにくい人の就労、生活様式や文化等について、キャリア教育だよりや校内掲示で理解・啓発を図る。 ・個別の教育支援計画等をもとに懇談で話し合う。
５ 業務改善の推進	(選 一) (業 務 改 善 の 推 進 の 目 標 の 達 成 の 検 討 と 精 進)	・年度当初や行事前、評価の時期になると時間外業務が増える傾向にある。 ・時間の使い方、行事や分掌業務の内容について、再度検討する必要がある。	・個々の教職員の年間時間外業務が前年度比90%になり、月45時間を超える勤務者が解消する。 ・業務内容が精選され、計画や取組、評価や引き継ぎなどスムーズな運営が行われている。	・月2回の早帰り日の設定し、時間管理の意識を高めるよう努める。勤怠管理システムを活用し、時間外業務時間を可視化して、毎月の衛生委員会や各自で確認する。 ・業務内容の意図や方法について各学部や分掌で検討して精選を図り、可能なものは削減する。